

『狭心症ってどんな病気？』

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



狭心症という病名はよく耳にされるとと思います。でも「狭心症ってどういう病気か説明して下さい」と言われるとなかなか言葉が出てこないのではないのでしょうか？

心臓は筋肉（心筋）が収縮と拡張を繰り返すことで全身や肺に血液を送り出すポンプの働きをしています。心臓も絶え間なく動き続けるためには、血液中の酸素と栄養分の補給が必要であり、心筋に栄養を与えるための血管（冠動脈）が心臓の表面を取り囲んでいます。

狭心症とは冠動脈の血液の流れが悪くなり、心筋に十分な血液の栄養を届けられなくなった状態であり、胸痛などの症状が出現します。狭心症には主に労作性狭心症と冠攣縮性狭心症の2種類があります。労作性狭心症では冠動脈内にプラークと呼ばれる動脈硬化の固まりが生じ、血液の通り道が狭くなっています。動脈硬化の進行した高齢者に起こりやすく、階段や坂道を登ったりして心臓に負荷がかかったときに症状が出やすくなります。これに対し冠攣縮性狭心症は冠動脈が攣縮（けいれん）して一時的に縮んでしまい、血液が流れにくくなる状態で、寒い時期の夜間や早朝の安静時に症状が出やすく、動脈硬化の無い若い人にも起こりえます。

狭心症の典型的な症状は、胸全体の広い範囲が重苦しく締め付けられるような痛みがあり、5分間前後持続して次第に改善してきます。このため瞬間的な痛みや、指先で指し示せるような狭い範囲の痛みは狭心症の痛みではありません。狭心症は放置しておく、狭くなった血管がいずれ閉塞し、心臓の筋肉が壊死してしまう心筋梗塞に移行する可能性があります。狭心症を疑わせる胸痛がある場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000